



通常訪問研修を終えて① 舟橋小学校

研究主題：心と体の健康づくりを主体的・対話的に実践していく子供の育成

今年度から県小教研保健部会の研究推進校の指定（初年度）を受け、研究・実践を進めています。通常訪問研修で明らかになったことや課題の一部を紹介します。

<明らかになったこと>

- ・子供の理解を強くさせるために、教師は問い返しをしていかななくてはならない。その中で、子供全員を同じ話合いのステージに立たせることができる。
- ・子供が課題を自分事として捉えるために、子供の「知りたい」という意欲が十分に高まってから、専門性を生かした指導を取り入れるとよい。



<課題>

- ・主体的な学びとなるためにグループ活動やペア学習を取り入れるが、何をどう話し合うのかを教師が明確に指示したり、活動の様子によっては途中で切り上げて全体での話合いに戻したりするなど、子供の様子によって臨機応変に対応する必要がある。
- ・全体で学んだことをグループや個人の学びにつないでいくためには、終末だけでなく、授業展開部でも、自分の考えを「見つめる」「比べる」時間を意図的にもたせる。
- ・子供が主体となる授業にするために、日頃からなんでも言い合える温かい学級づくりを進める。また、授業で考えることを焦点化し、子供同士の対話を生み出すために、提示する資料や教師の言葉を精選し、子供に委ねる構えが必要である。
- ・保健学習は、学習の成果を家庭に返すことが非常に重要である。子供が学んだことを保護者に伝える方法を工夫していく。
- ・保健の授業は様々な教職員が関わって進めていく。どのようにそれぞれのよさを生かすか、部会を基に組織的に取り組んでいくとよい。

学んだことを今後の授業づくりに生かしていきたいと思えます。

文責 教務主任 関 口 彩

